

「ローテーション道徳」を柱とした道徳の授業力向上 ～学びを深める生徒の育成をめざして～

東根市立神町中学校 校長 宗片史樹

本校は、「考えを交流し、学びを深める生徒の育成 ～道徳の授業を通した豊かな表現力の育成を目指して～」を研究主題に、3年間「特別の教科 道徳」についての実践を重ねてきました。

本校が道徳の研究を進めることになったきっかけは、本校生徒の実態にありました。友達同士では本音で正しいことを主張することができず、悪いと分かっているが注意することができない。」と、当時の紀要には書いてあります。そこで、答えが1つではない道徳の授業を通して、自分の考えを相手に伝えたり、自分と異なる考え方を受け入れる姿勢を育んでいくために全校体制で道徳の研究を進めていくことになりました。

時を同じくして、山形県教育研究会中学校道徳部会の研究協議会も引き受けることになりました。「特別な教科 道徳」ではありますが、特別に立派な道徳の授業実践ではなく、どの学校でも行えるような平凡な実践、普段の授業の積み重ねこそが新たに教科となった道徳の研究にはふさわしいのではないかとすることで、1時間1時間の授業実践を大事にした、背伸びをしない研究・実践を重ねてきました。

その中で、研究テーマ「学びを深める生徒の育成」に向けて、目指すべき道徳の授業の姿を次の2点ととらえ、2年目から重点を絞って研究を行いました。1つ目は「多様で魅力ある授業」であり、2つ目は「考えを深め、価値観を育てる授業」でした。この2つの授業を創るための大きな鍵が、「ローテーション道徳」でした。研究を通して得られた成果や課題を、改めて検証してみました。

1 「ローテーション道徳」の導入

本校では、「多様で魅力のある授業づくり」のために、また「考えを深め、価値観を育てる授業づくり」のために、ローテーション道徳を取り入れました。学級経営のことも考え、4月の道徳は学級担任が行い、5月の連休

【資料1】1年の進め方

月	担当者
4月	①全校道徳（校長） ②道徳（学級担任） ③道徳（学級担任）
5～1月	ローテーション道徳
2月	③道徳（学級担任） ④道徳（学級担任）
3月	⑤学年道徳（校長）

以降からローテーション道徳をスタートさせ、年度末の２月からは再び学級担任が道徳を持つように考えてみました。なお、道徳開きは全校一斉で、最後の道徳は学年毎に行い、どちらも校長が担当しました。【資料１】

実際のローテーション表は【資料２】になります。１学年５クラスを、８～９人の担任団全員で「ローテーション道徳」を行いました。

【資料２】（「ローテーション道徳」のローテーション例）

	学年主任	副主任	担任 A	担任 B	担任 C	担任 C	担任 D	担任外
① 10/18	３組	４組	５組				１組	２組
② 10/23		１組	２組	３組	４組	５組		
③ 11/7				１組	２組	３組	４組	５組
④ 11/15	４組	５組	１組				２組	３組
⑤ 11/29	１組	２組	３組	４組	５組			
⑥ 12/6			４組	２組	３組	１組	５組	
⑦ 12/13	２組	３組		５組		４組		１組
⑧ 12/20	５組				１組	２組	３組	４組

実際に「ローテーション道徳」を行ってみて、先生方には「道徳はしなければならないもの」という考えが浸透し、授業時間がしっかり確保されてきました。学年団として道徳に取り組むことで、先生方同士の道徳に関する話し合いも増え、先生方自身の道徳に対する苦手意識も低くなってきたように感じました。また、学級担任の先生に空き時間が生まれるので、他の先生の授業を参観する場面なども見られるようになりました。生徒の視点で見ると、毎回先生が変わるので、違う雰囲気、パターンの授業と出会えて楽しみ感が増えます。生徒はいろいろな先生の道徳の授業を楽しみにして、意欲的に道徳に取り組むようになりました。

２ 「多様で魅力ある授業づくり」について

「ローテーション授業」を、多様で魅力ある授業づくりのために活かしたかったので、先生方の指導する価値項目が重なっても構わないことにしました。先生方の思い入れの

ある資料を使うようにしてもらい、それぞれの先生方が使った資料を蓄積するようにしました（【資料3】実践資料の蓄積）。その結果【資料4】に見られるように、多様な資料・教材に先生方がチャレンジし、その時に使用した学習プリントをデータ上でお互いに共有するようになりました。

実践した資料を加え蓄積していく

【資料3】年間指導計画への実践資料の追加

道徳年間指導計画（2年）					
	学校行事	主題名	資料名	内容項目	実践資料
Ⅰ	4月5日～4月26日 始業式 入学式 歓迎集会 生徒総会 研修旅行(3年) 宿泊研修(1年) 授業参観 PTA総会	自分の弱さの克服	1. 自分の弱さと戦え	D・(22)よりよく生きる喜び	タッチアウト
		心を形に	3. 挨拶は心のスキンシップ	B・(7)礼儀	
		自己を見つめる	15. 「自分」ってなんだろう	A・(3)向上心、個性の伸長	
Ⅱ	5月7日～6月21日 家庭訪問 1学期中間テスト 新入生授業参観 さくらんぼマラソン 地区総体 教育相談	支え合う生命	4. 最後のパートナー	D・(19)生命の尊さ	A ではない君と
		締めない心	5. 「自分」を締めない	A・(4)希望と勇氣、克己と強い意志	聞く地獄と聞かぬ地獄
		個性を尊重する世界	8. リスペクトアゲース	C・(11)公正、公平、社会正義	ひとりぼっち、ココロ部「だれを先に救える？」
		自分を信じて	6. 五月の風 ―カナー―	A・(1)自主、自律、自由と責任	
		本当の友達	7. 五月の風 ―ミカー―	B・(8)友情、信頼	みんなに合わせる「友情」
		国際社会の一員	10. 海と空 ―檣野の人々―	C・(18)国際理解、国際貢献	
Ⅲ	6月24日～7月30日 1学期技能教科テスト 職業体験(2年) 1学期期末テスト 吹奏楽コンクール 県中総体 大掃除 授業参観 保護者会 終業式	働くということ	2. そうじの神様が教えてくれたこと	C・(13)勤労	
		規則の役割	11. 美しい鳥取砂丘	C・(10)遵法精神、公徳心	ココロ部「連れてきた客」
		インターネット上の責任、ある行動	13. ネット将棋	A・(1)自主、自律、自由と責任	
		地域の祭りの大切さ	12. 和樹の夏祭り	C・(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	ココロ部「まぐろの村の未来」
		輝く生命	17. 体験ナースをとおして	D・(19)生命の尊さ	ドナーカード

【資料4】ワークシートの共有

1 8 アキラのくじ運 2-5.docx	2018/06/21 8:41
1 8 アキラのくじ運.docx	2018/06/20 18:53
31 アイツとセントパレンタインデー.docx	2019/02/05 9:32
アイツとセントパレンタインデー.docx	2019/02/07 7:58
あなたにとって大切なもの.docx	2018/07/12 11:17
ひとりぼっち.docx	2019/01/16 8:01
みんなに合わせる友情.docx	2019/01/15 19:56
みんなの自由な公園.docx	2018/05/09 19:53
リクエスト.docx	2018/06/14 8:38
ロスタイムのつづき.docx	2018/05/31 7:37
浦島太郎.docx	2019/03/06 19:41
加山さんの願い.docx	2018/09/06 7:53
外国から来た転校生（ココロ部）.docx	2018/09/20 7:16
自然な手 自然な言葉（道しるべ）.docx	2018/11/07 9:58
障害者たちは不幸か.docx	2018/11/15 8:43
食べる動物、食べない動物(3か) .docx	2018/10/23 7:32
心情円盤.docx	2018/04/24 18:25
先達として、どう言えば良いかな？.docx	2018/06/07 8:37

外国から来た転校生

2 年 組 番 氏 名 ()

問1 コジマくんはどうしたらよいと思いますか。次の3つの中から選び、その理由を答えなさい。

A. 外してもらい B. そのまま外さなくてよい C. その他

【理由】

問2 文化や考え、価値観が違う人たちと一緒に生活していくために大切なことはなんでしょう。

1年間実施した授業の価値項目を並べてみると、必要とされる22の項目はほぼ網羅されていました。ただ、年間授業計画との兼ね合わせをどう調整していくのかが今後の課題かと感じました。各期のローテーションでどの価値項目を指導していくのか、誰が担当するのかを事前に決めて、年間指導計画に反映させていくことが理想ではあると思いますが、まだそこまでには至っていないのが現状です。また、ローテーション期間中に、重点的に指導する価値項目（いじめ等）を決めて指導する時期があっても良いのかもしれませんが。

3 「考えを深め、価値観を育てる授業」づくりについて

「ローテーション道德」を取り入れた2つ目の大きな理由は、1つの資料を深く読み取り、「考えを深める」授業に役立ててもらいたいと思ったからです。1時間の授業を終えて、「うまくいかなかった」「こうすればよかった」と思うだけでなく、実際にどの部分をどのように変えていくのかをじっくり考えて欲しかったからです。「ローテーション道德」を通して、同じ先生の授業でも【資料5】や【資料6】のような変化が見られるようになりました。このような先生方の変容が、授業研究会だけではなく普段の授業の中でも行われていることが、「考えを深め、価値観を育てる授業」につながっているのだと感じています。

【資料5】発問の変化1

《資料名》 「敵兵を救出せよ ～高島が生んだ偉人 工藤俊作～」 【1年・生命の尊重】

（出典：山形県道德読み物資料集）

太平洋戦争中、日本軍の砲弾が命中してエンジンが停止した軍艦から脱出した400名以上のイギリス軍兵士を、日本の工藤俊作艦長は「敵兵を救出せよ」と命令を下し救出活動に当たった。その時に救出されたイギリス人のサムエル・フォースは「死ぬ前に、どうしても一言お礼が言いたい。」と日本を訪れ、工藤艦長の墓前で涙を流し手を合わせた。

最初の展開

- 1 戦争について考える
- 2 資料を読む
- 3 工藤艦長は、どのような思いでイギリス兵を

主発問の前段として工藤艦長、日本兵、イギリス兵についての心情を考える場面を設けたことにより、多面的・多角的な視点に立って考えを深めることができた。

変更後の展開

- 1 戦争について考える。
- 2 資料を読む
- 3 工藤艦長、日本兵、イギリス兵の思いを考え

助けたのか。 4（主発問）サムエルさんは、墓前で手を合わせ、工藤艦長に何と言ったのか。 5 振り返り	主発問を変えたことにより、救出活動に当たった日本兵、救出されたイギリス兵、さらには兵士の家族の思いにまで話が及び、軍規に違反して救出を命じた工藤艦長の苦悩や思いに迫ることができ、生命を尊ぶ深い授業に変容した。	る。 4（主発問）工藤艦長は、本当に敵兵を救出しなかったのか。 5 振り返り
---	---	---

【資料6】発問の変化2

《資料名》戦争で死んだ兵士のこと（作：小泉吉宏）【3年・よりよく生きる】

戦争で死んだ兵士の人生を、時間を巻き戻しながらたどっていく絵本である。3日前に兵士として召集され戦地に赴き、たった2日のうちに死んでしまった。それまでは友人がいて、恋人がいて、両親と暮らす、ごく普通の若者だった。

最初の展開		変更後の展開
1 絵本のスライドを見ながら範読を聞く。 2 <主発問>兵士は自分の人生を幸せだと思っているでしょうか。 3 兵士に関わった人は、兵士の死をどう受け止めたかを考える。 4 振り返り	印象に残った場面を出すことで、幸せや不幸せについて考える場面を設けた。このことによって、幸せに対して多面的・多角的な思考が広がった。 兵士の人生を考えながら、最後は自分に返す場面を設けたことにより、自分にとってよりよく生きるとはどういうことなのかを深く考えていた。	1 絵本のスライドを見ながら範読を聞く。 2 印象に残った場面を出し合い、兵士の人生は幸せだったのかを考える。 4 <主発問>幸せとはどんなことか。みなさんは、自分の人生をどんな人生にしていきたいですか。 5 振り返り

2つの例を見てみると、主発問を吟味していくことは当然であります。主発問の前に多面的・多角的な思考を促すような場面をつくっておくことも、考えを深めさせるために有効であることがわかってきました。例えば【資料5】では、主発問の前に、それぞれ違う立場にいる人たちの心情を考える場面を設けました。その結果、主発問に対して様々な角度からの意見が出て、考えが深まっていったと考えられます。【資料6】では、主発問の前に、資料の中で印象に残った場面とその理由を考え発表させておくことによって、人によって幸せや不幸せの定義に違いがあるということに気づき、どの視点に立って幸せを考えていくのか、考えが深まっていきました。

資料や主発問を吟味し深まりのある考えを引き出すためには、同じ資料を使って複数回の授業を行うことがとても有効であるということです。「ローテーション授業」では、1つの資料とじっくり向き合い、変化させながら、複数回の授業を行うことができます。これを繰り返すことで、自然と資料分析の力、発問の吟味、授業の展開の流れなどを自分なりに勉強していくことができます。「ローテーション授業」は先生方の力量アップに大きく寄与しています。

4 評価について

研究を通して、心配されたことの1つが「評価」でした。「ローテーション道徳」での評価をどのように行うかということでした。

「評価」については、サーバー上にある名簿に、授業担当者が2～4人程度目立った生徒を抽出して学習の様子を書き込むようにしました。コメントが埋まってくると、逆にコメントの記されていない生徒の様子を観察し評価を記入するようにお願いしました。評価の記述については、1文目には生徒の授業での様子（「授業では・・・」）と、2文目には具体的授業中の様子（「特に〇〇では・・・」）と書くことにしました。（【資料7】評価例）やってみて、授業の質を高めていくことで評価は自ずからついてくることが確認できました。ただ、道徳の授業で育てようとしている道徳的な高まり（気持ち）が、日々の生活で生徒に培われているのか、どのように見取るのが課題として残りました。

【資料 7】評価例

生徒 A	友達の考えによく耳を傾けて、「こんなときはどうすべきなのか」と課題を自分事にとらえて考えることができました。『ハゲワシと少女』の授業では、世界にはたくさんの人が飢餓や戦争で苦しんでいることを知り、多くの人を救うためにはどのように行動すればよいかと真剣に考えました。
生徒 C	自分の考えや意見を伝えるとともに、自分と異なる意見も尊重しようとする姿勢が印象的でした。『おはようございます』の授業では、あいさつを礼儀としてとらえるだけでなく、人とのコミュニケーションであると考えて、自分のあいさつを振り返り、さわやかなあいさつを実践しようと考えました。
生徒 D	どの教材でも自分に置き換えて考え、多様なものの見方や考え方があることをイメージしていました。『正しいのは俺たちだ』の授業では、トラブルのなかでの 3 年生の行動のあり方に言及し、よりよい具体的な方法を提案することで、クラスの意見交流を活発に行い、責任ある行動について考えました。

5 研究を通して

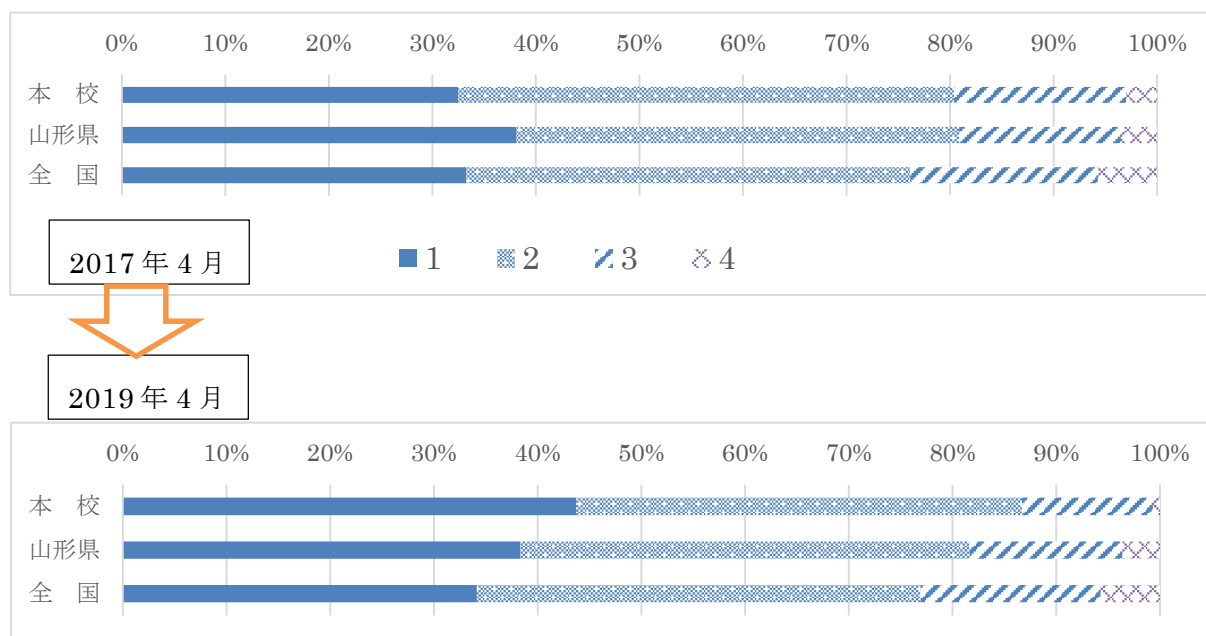
3 年間の生徒の変容として、ある先生は「生徒の普段の受け答えなど、物腰が柔和になっていると感じます。あいさつなど正しいことを正しいと認め取り組もうとする生徒が増えたと感じています。」と話してくれました。その背後には、道徳の授業を通して先生方の生徒への接し方も大きく変わったからではないかと考えています。

「人としてどう育てていくか、自分なりにいくつかのビジョンが見えてきました。」と話してくれた先生もいます。今年度本校に赴任してきた先生からは、「正直、道徳は苦手なことで憂鬱に感じていましたが、初めて『ローテーション道徳』をしてみて、先生方ともいろいろ話すことができて、最近は前向きになってきました。」との感想がありました。さらに、「道徳は、自分が苦しい立場に立った時、どう判断し行動するかが最終的な決着点だと思う。生徒の心を授業という安全地帯の中で本当に追い詰められているかは、いつまでも大きな課題かなと思う。」と話してくれた先生もいました。「自分の考えを相手に伝えたり、自分と異なる考え方を受け入れる姿勢」が、学校全体で育まれつつあります。

最後に、全国学力学習状況調査の生徒・質問項目を 2017 年 4 月（研究 1 年次）と 2019 年 4 月（研究 3 年次）で比較してみると、下のような結果となりました。道徳の授業が、

「考えを深める生徒の育成」に向かっていることを感じます。

問) 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。



1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえばあてはまらない 4 当てはまらない

当初の狙いであった「学びを深める生徒の育成」につながっているかと問われれば、まだまだスタート地点に立ったばかりかなと感じています。それでも、「自分の考えを相手に伝えたり、自分と異なる考え方を受け入れる姿勢」が、学校全体で育まれつつあることは大きな研究の成果だと思います。

お恥ずかしい実践ではありますが、「道徳が楽しい」と生徒が言ってくれていること、これが私たち教職員にとって、何よりのことだと思っています。本校の実践が、道徳に悩む多くの先生方の一助になればと思っています。